

令和7年度岡山県自主防災組織リーダー研修会

実施報告書

一般財団法人日本防火・防災協会

岡 山 県

実施概要

1 目的

自主防災活動の担い手を対象として、防災知識の習得やスキルアップのための研修会を開催し、地域防災力の向上や自主防災活動の活性化を促進することを目的とする。

2 実施主体および後援等

共催 岡山県、一般財団法人 日本防火・防災協会

後援 総務省消防庁

3 実施日時

令和7年12月7日（日）10時00分 から 16時30分 まで

4 実施場所

おかやま西川原プラザ

岡山市中区西川原255番地

TEL 086-272-1923

5 参加者

自主防災リーダー等 計24名

6 研修内容

別紙日程表

令和7年度岡山県自主防災組織リーダー研修会
日 程 表

時 間	内 容
9:30	○ 受 付
10:00	○ 開 会 式
10:01	○グループ内で各参加者の自己紹介
10:25	○ 講 演 A ・ 講 師 災害NGO結（ゆい） 代表 前原 土武 氏 「地域防災力を高める“受援力”と関係づくり」
11:05	＜休 憩＞
11:15	○グループワーク ※講義Bの前段 ・ 各地域の現状と資源（人・体制・モノ）、平時からできる対策や 取組みについてグループ内で話し合い
11:40	○ 講 演 B ・ 講 師 NPO法人岡山NPOセンター 詩叶 純子 氏 「岡山県内の平常時・災害時に活用できる資源の紹介」
12:10	昼 食
13:00	○ 演習（個人・グループワーク） <演習内プログラム①> ・ 講義後、地域での関係づくりや自分の立ち位置形成のための 計画(プラン)作成 ・ グループ内・全体での共有
14:00	＜休 憩＞
14:15	○ 講評・事例紹介 <演習内プログラム②> ・ 共有されたプランについて講師による講評・追加の事例紹介
15:00	○ 演習（個人・グループワーク） <演習内プログラム③> ・ 講師による講評・事例紹介の内容をもとに計画（プラン）の ブラッシュアップと、グループ内での共有
15:40	○ 演習の総括 <演習内プログラム④> ・ 講師による演習の総括 ・ 質疑応答
16:00	○ 意見交換会（自由参加）
16:30	○ 終 了

1.事業概要

- ・日 時:令和 7 年 12 月 7 日(日曜日) 10 時00分~16時00分
- ・場 所:おかやま西川原プラザ2階 第1会議室(岡山市中区西川原 255)
- ・参加者:24名

○講義

講義1「地域防災力を高める“受援力”と関係づくり」(平常時・災害時の外部支援の力(市町村との連携含む)と「受け入れる・活かせる」地域について)

・講師:災害 NGO 結(ゆい)代表 前原土武氏

講義2「岡山県内の平常時・災害時に活用できる資源の紹介」(市町村、社協、民間などの多様な団体について)

・NPO 法人岡山 NPO センター(災害支援ネットワークおかやま事務局) 詩叶純子氏

○演習

「地域での関係づくりや自分の立ち位置形成のためのプラン作成づくり」

・講師:災害 NGO 結(ゆい)代表 前原土武氏

○意見交換会(自由参加)

研修終了後、参加者同士の交流タイム

**令和7年度
自主防災組織
リーダー研修会
応用編**

2025.12.7(日)
10:00~16:00
おかやま西川原プラザ 2階第1会議室
(岡山市中区西川原255)

参加申込 定員50名
12/3(水) まで

Web: 右記QRコードを読み取り、フォームに必要事項をご入力の上送信してください。

メール: 以下の事項を【npominken@gmail.com】までご連絡ください。
氏名
住所
電話番号
所属(例: ●●自主防災会)
市町村への情報提供に同意する・しない

電話: 上記事項を【050-5799-9289】までご連絡ください。
(受付時間: 平日 9:00~17:00)

問合せ先

特定非営利活動法人 みんなの集落研究所
〒709-3111 岡山市北区建部町福渡9 4 7
電話番号: 050-5799-9289
メール: npominken@gmail.com

申込フォーム QRコード

メール送信用 QRコード

テーマ

地域の受援力

事前学習とセット受講がオススメ!

①事前学習(推奨) → ②研修当日(12/7(日))

自宅で研修受講(e-ラーニング) * 会場で研修受講

*令和7年度自主防災リーダー研修会(e-ラーニング)と併行です。受講料は申し込み書へ別途送付します。

*定員に達し次第、県ホームページでお知らせします。
 *申込情報の提供に同意の方については、市町村へ情報提供します(県内在住者のみ)

12/7(日)の研修カリキュラム

10:00 講義

講義①
「地域防災力を高める“受援力”と関係づくり」
平常時・災害時の外部支援の力(市町村との連携含む)と「受け入れる・活かせる」地域について
災害NGO結(ゆい) 代表 前原土武氏

講義②
「岡山県内の平常時・災害時に活用できる資源の紹介」
市町村、社協、民間(例:災害支援ネットワークおかやま内の組織)などの多様な団体について
NPO法人岡山NPOセンター(災害支援ネットワークおかやま事務局) 詩叶純子氏

12:10 ~ 休憩 ~

13:00 演習

プランの検討 → 講師・事例紹介 → グループワーク

地域での関係づくりや自分の立ち位置形成のためのプラン作成
講師からの講評・事例紹介
事例を踏まえてプランのブラッシュアップ・グループで話し合い

16:00 研修終了

参加者交流タイム

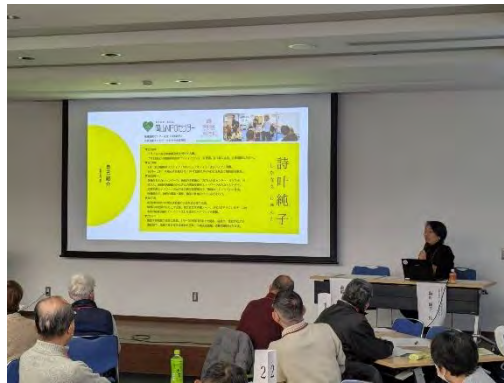
(自由参加) 参加者同士の交流タイム
皆さんの地域の防災活動の様子や活動のなかでの課題について話し合ってみませんか?

16:30

研修を修了された方には、
日本防火・防災協会から修了証・記念品の授与あり
 (主催)岡山県、一般財団法人日本防火・防災協会 / (後援)総務省消防庁

[当日資料] ※一部抜粋
(災害 NGO 結(ゆい)代表 前原土武氏)

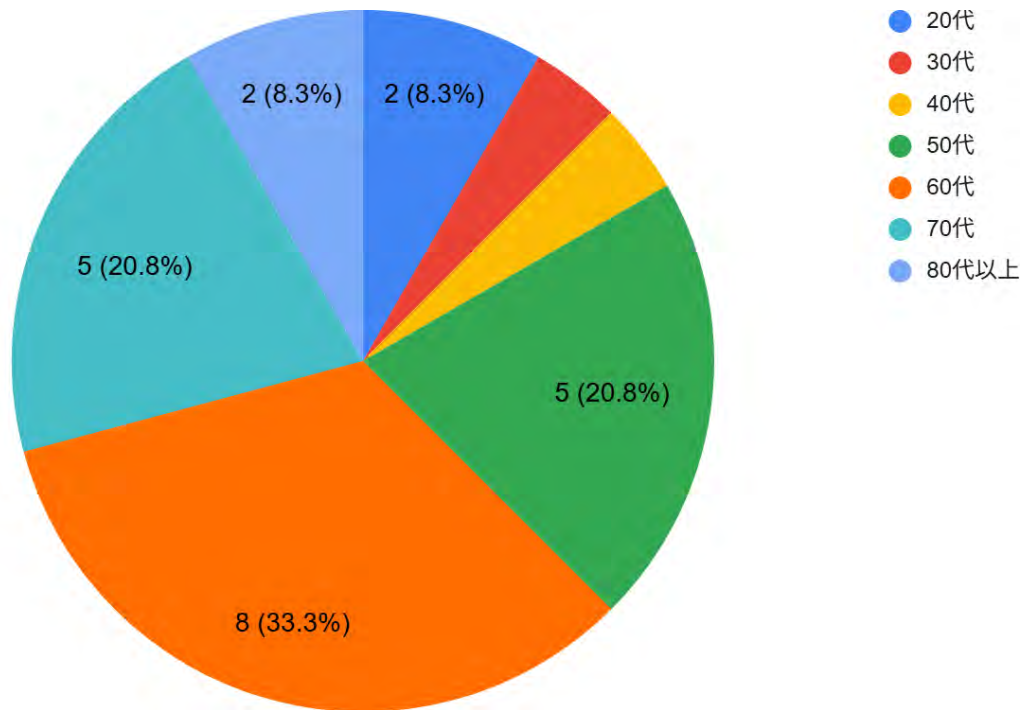
[当日写真]



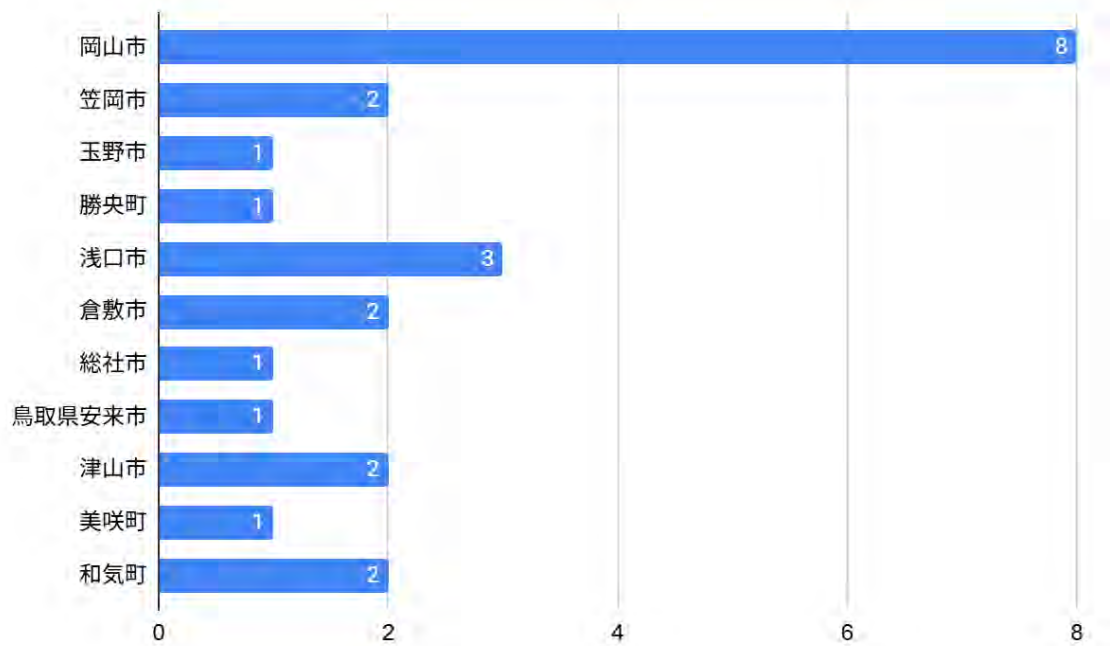
2.アンケート集計結果

[参加者アンケート] 総回答数:24 件(人)

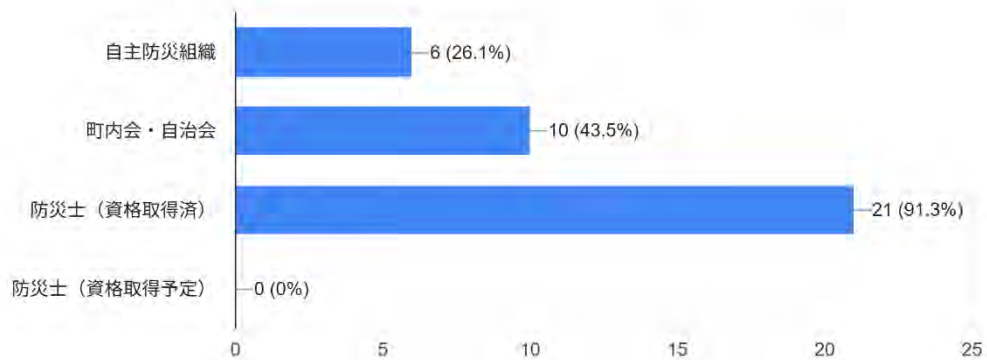
問1 あなたのご年齢を教えてください。



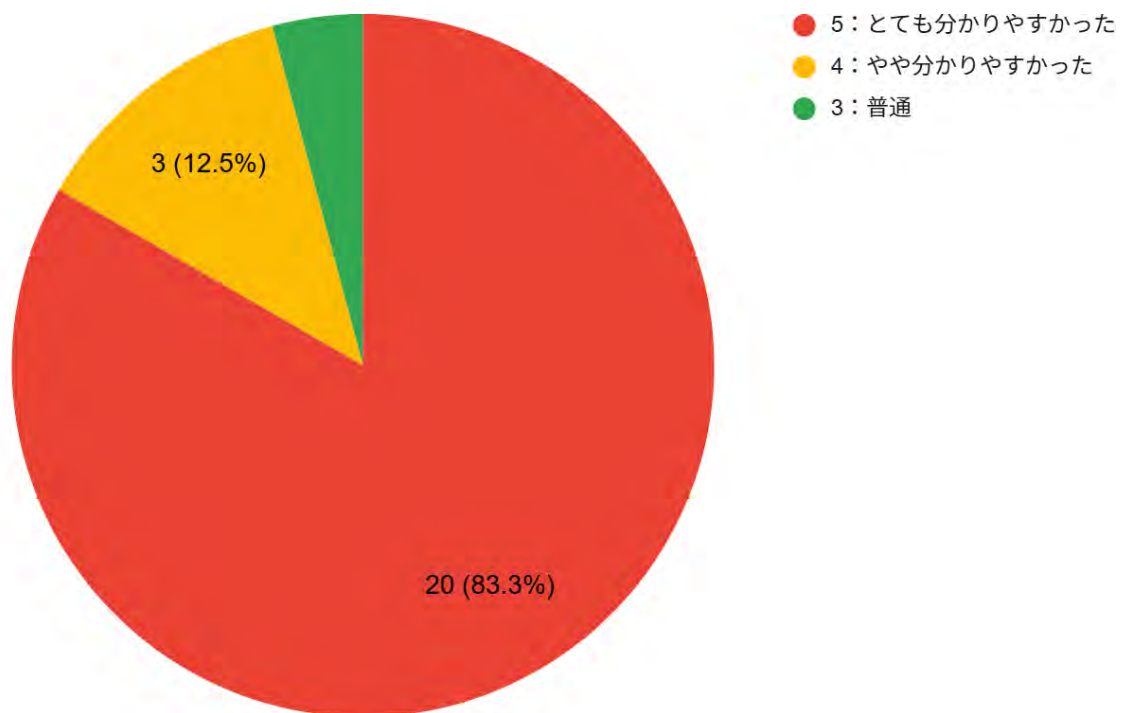
問2 あなたのお住いの市町村を教えてください。



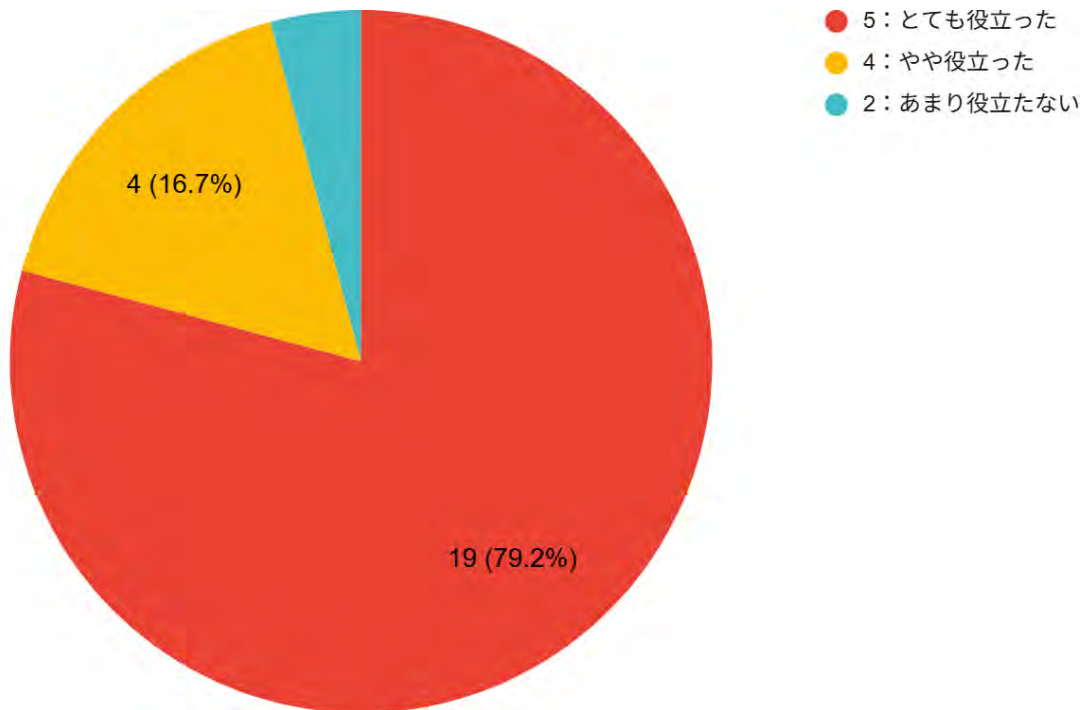
問 3 あなたのご所属を教えてください。



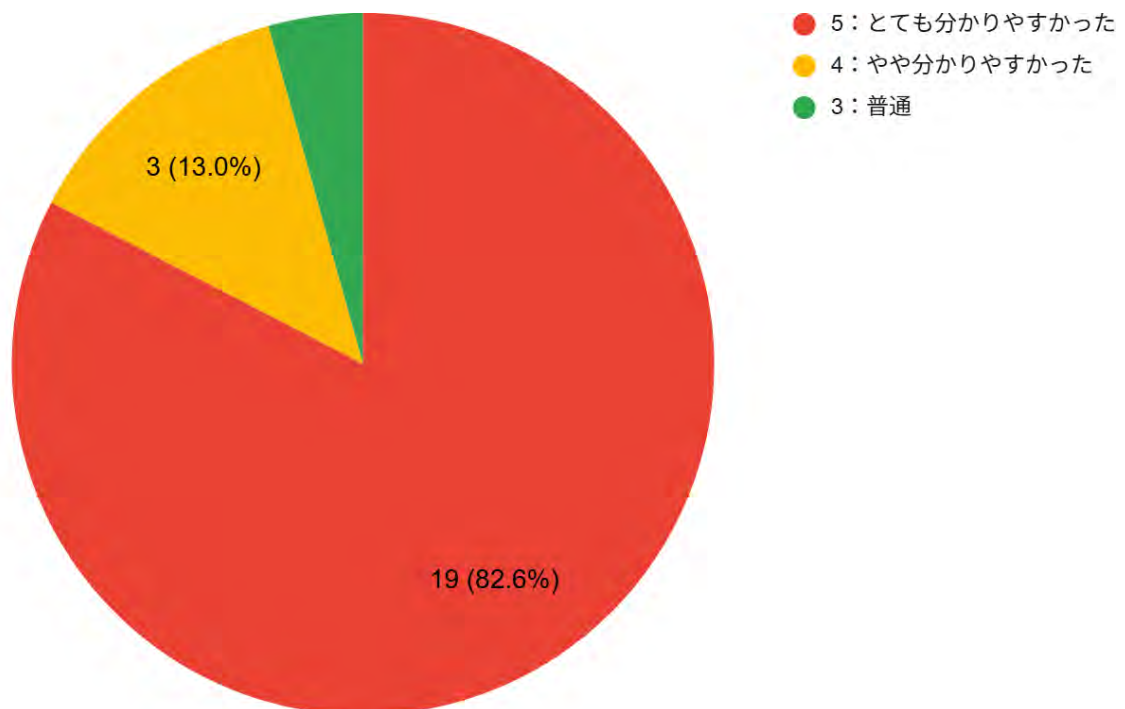
問 4-1（講義）今回の研修の内容は分かりやすかったですか？



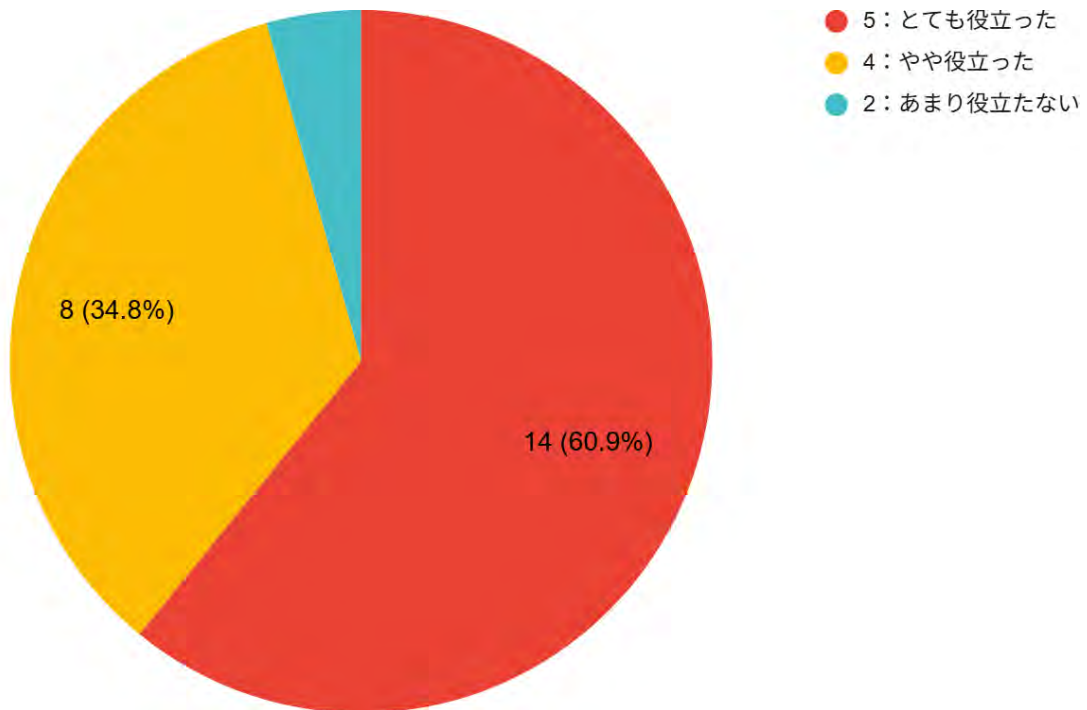
問 4-2 (講義)研修の内容は、今後のご自身の活動や地域での活動(取組み)にどの程度役立ちそうですか？



問 5-1 (演習)今回の研修の内容は分かりやすかったですか？



問 5-2 (演習)研修の内容は、今後のご自身の活動や地域での活動(取組み)にどの程度役立ちそうですか？

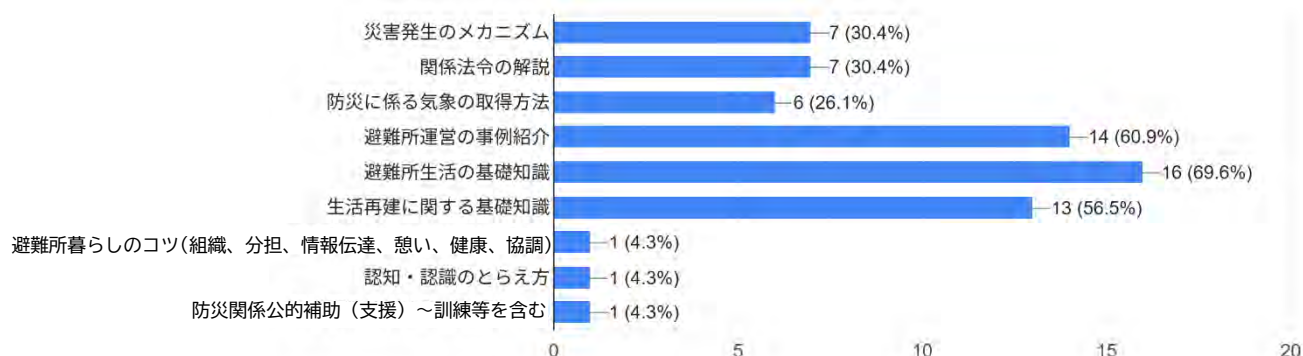


問 6 研修の中で新しく知ったこと、印象に残ったこと、所属する地域にも広めようと思ったことはありましたか？

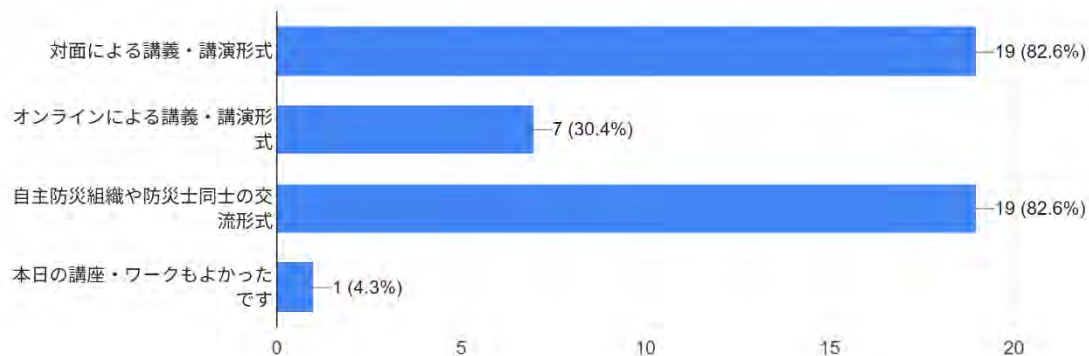
- 地域の人のコミュニケーションが大事なことを改めて分かりました。もっと防災知識(身近なことから)広めていきたいと思いました。参加しやすいことを考える(地域の行事に)
- 平時に出来ないことは有事にも出来ません 有事よりも平時が大切
- 防災活動を対象とする民間助成事業の紹介 ・日頃からある地域課題が災害時には、より重く被災者に被害や課題として押し掛かってくるということ(人材不足、高齢化、空き家、コミュニティの形骸化等) ・他人事(ひとごと)を、自分事へ
- 地域力が復旧・復興に重要な役割を果たすことが再認識できた。
- 防災意識の高い仲間がいらっしゃることを心強く思いました。自分一人で考えず、それぞれの専門領域の方に助けを求めることも重要かと思いました。
- 有事よりも平時の方が大事だということ
- 受援力について初めて知りました。平時より受援力を高め、周囲の方にも支援力を高める活動をしたい。地域の方とのつながり作りに取り組みたい。自主防災組織について担当者の方に確認し、取り組みを知りたい。
- 地域の方を意識付けして防災行動につながるよう行動しないといけないと思いました。
- 町内会での声かけの仕方、継続方法を参考に、地域にかえり、積極的に働きかけをしたい。
- 福祉マップ、民間助成制度等、今回の研修のすべて

- 災害は、おきてからの行動が大変だということに気づきました。(予防とか、避難訓練のことばかり考えていたので…)
- 防災福祉マップづくり ・ネットワークづくり
- 具体的な被災地の状況、必要なこと、復興のタイムラインをうかがい、とても役に立ちました。また、参加者と課題を共有できたこと、同じ課題を持って取り組まれていることは、今後心強く思います。
- 平時にできないことは有事にもできない。いかに平時から防災・災害を意識して、しかも、それをあまり表に出さないで楽しい活動におとしこめるか、ということです。
- 今回もいろいろと学ばせて頂きありがとうございました。講演の中で「平常にできないことは、有事には出来ない」「日頃からの地域との連携が大切」ということが強く心に残りました。しっかりと地域の人とつながっていこうと思いました。
- 防災の為に資機材の準備(簡易トイレ、非常食等)
- 私のまちのシートが良かった
- 他の地域は 200 人とか 2000 人とかの団体で、私は 40 戸の小規模集落。やはり数が多い方が勢いがあると思う。

問 7-1 今後、どのようなテーマの防災講座があると参加したいと思いますか？



問 7-2 今後、どのような形式の防災講座があると参加したいと思いますか？



問 8 その他、ご意見等があれば記入してください。

- 長時間でしたが、楽しく勉強させていただきました。ありがとうございました。
- 今回、応用編に参加させていただき、私自身、地域の方々が抱える課題をより具体的に知ることができ、大変勉強になりました。私たちの班は、ある程度経験を積んだ防災士2名、最近、資格を取得したものの、何から取り組んだら良いのか迷っている方2名の4名構成でした。そこで、演習では1つのテーマを皆で積み上げることが、意見交換の活発化や意識の共有、意欲の向上になると思い、かなり重いテーマ（自主防災組織設立）を設定しました。このことで、そこに至るプロセスの整理や活動の内容、組織形成上重要なキーマン(男性・女性・子供・若い世代)の存在を伝えることが出来たと思います。今後、当該地区で本当に自主防災組織が立ち上がるよう、サポートしたいと思います。ありがとうございました。
- 後継者にどう受け継いで行くか、又、時代の変化に応じた取り組みトライしていけるか、かな？
- 災害発生時、最初に対応する必要があるトイレのことをもっと知ってほしい
- 県外から参加して、いろんな方と出会うことができました。実際に講義を対面で受けることでオンラインよりもより伝わるものがありました。今、自分自身に出来ることを書き出すことから始めたいと思います。ありがとうございます。
- 今回の内容は、特に地域(町内会)で中心となる町内会長等にも聞いて欲しい内容だと思いました。連合町内会長の会合などでも今日のような話題を出し、意識付けができれば、防災意識を持つ地域住民も動きやすくなると思います。
- 要支援者を含めた地域の防災訓練の構築を考えていきたいです。
- 非常に有意義な講習でした。どうもありがとうございました。
- とても勉強になりました。ありがとうございます。
- 先進的なとりくみを紹介していただき、ありがとうございました。
- 今回もいろいろと学ばせて頂きありがとうございました。今後の防災に役立てたいと思います。また、この様な研修に参加させて頂きたいと思います。
- 最後の時限での他の班の、又個人の意見を参考に出来る様テーブルを回るのとても勉強になりました。取り入れたいと思う事もありました。
- 最後、自分が作成した①、②のペーパーに付箋を貼っていただいたのがよかった。また各テーブルを回って色々な人のプランを見させていただいてよかった。
- ありがとう。感謝。勇気が出た。

〈 研 修 資 料 〉

地域防災力を高める“受援力”と関係づくり

災害NGO結~yui~



自主防災組織のリーダー研修

～受援力と連携～

災害NGO結 代表

前原 土武

地域防災力を高める“受援力”と関係づくり

災害NGO結~yui~



PROFILE



まえはら とむ

前原 土武

災害NGO結 代表
災害支援コーディネーター
日本サッカー復興支援委員

1978年沖縄生まれ。
美容師・旅人・ラフティングガイド・添乗員
を経て、2011年東日本大震災をきっかけに
現職。

自分一人のスコップを動かすより
1,000人のスコップを調整する方が
復旧・復興に結びつく



MISSION & ACTION

緊急支援・育成・伝える活動

■ 主な支援活動

- ・現場活動の総合的なコーディネート
- ・情報の集約&共有・課題の見える化
- ・災害ボランティアセンターの立ち上げ支援
- ・地元組織・団体の立ち上げ・運営支援など



- 現場で培った知見をもとに「被災地の今」を届ける講演活動

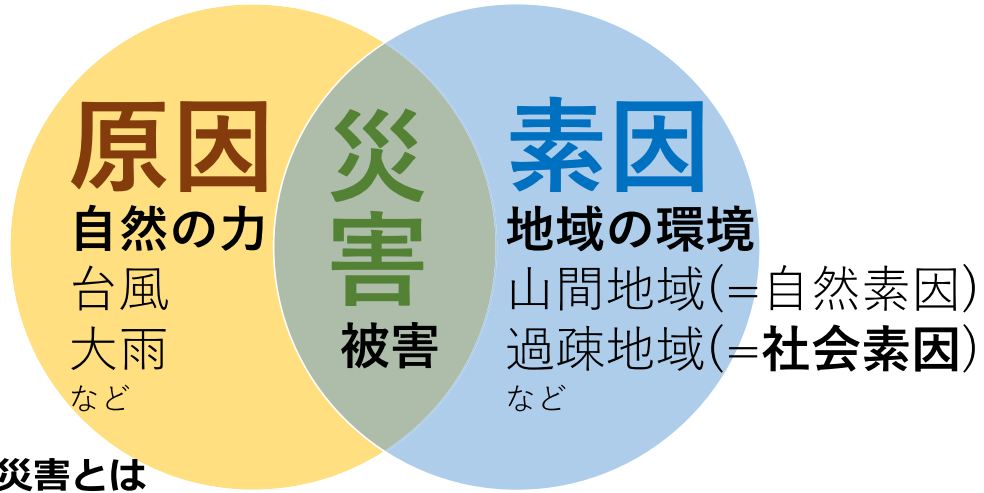
災害で浮き彫りになった現代社会の問題に対し、積極的に行動し関わりをもつきっかけを生み出すことで、人・社会・自然環境をお互いに結び、人々が遠い未来を自らの手で作るためのサポート行います。

緊急支援

2011年	3月	東日本大震災	東北地方	2017年	7月	九州北部豪雨	九州地方
	7月	福島・新潟豪雨災害	東北地方	2018年	6月	大阪北部地震	関西地方
	8月	台風12号大水害	関西地区		7月	平成30年7月豪雨	西日本地方
2012年	5月	つくば竜巻災害	北関東地区		9月	北海道胆振東部地震	北海道
	7月	九州北部豪雨災害	九州地区	2019年	8月	佐賀豪雨	九州地方
2013年	7月	山口・島根豪雨災害	中国地方		9月	台風15号	関東地方
	8月	島根西部豪雨災害	中国地方		10月	台風19号	東日本地方
	9月	台風18号大水害	関西地方	2020年	7月	令和2年7月豪雨	九州地区
	10月	伊豆大島土砂災害	関東地方	2021年	7月	静岡水害	東海地方
2014年	7月	山形豪雨災害	東北地方		8月	令和3年8月豪雨	九州地方
	8月	台風11号水害	四国地方	2022年	3月	福島沖地震	東北地方
	8月	8.20広島土砂災害	中国地方	2023年	6月	和歌山豪雨	関西地方
	10月	長野北部地震	中部地方		7月	九州豪雨	九州地方
2015年	9月	北関東・東北豪雨	北関東地方		8月	台風13号	北関東東北
2016年	4月	熊本地震	九州地方	2024年	1月	能登半島地震	北陸地方



災害とは



災害とは

暴風・竜巻・豪雨・豪雪・洪水・崖崩れ・土石流・高潮・地震・津波・噴火・地滑り その他の異常な自然現象

又は大規模な火事 若しくは 爆破 その他その及ばず被害の程度においてこれらの類する政令で定める原因により生ずる被害をいう

(災害対策基本法第二条)



被害の種類

局地的な災害

長所

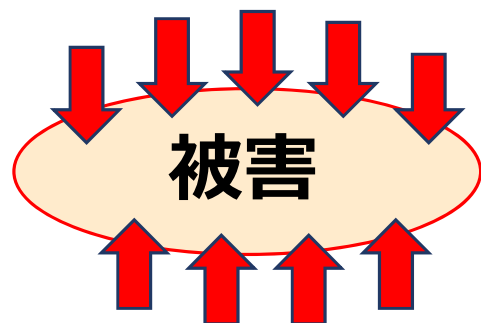
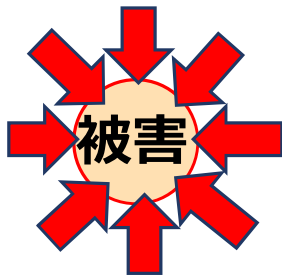
- 各地からの支援を受けやすい
- 集中的に復旧・復興作業が出来る

短所

- 沢山の支援が集まりコーディネートが難しい

広範囲的な災害

- 避難、支援のアクセスが困難
- 外からの支援が分散してしまう
- 広範囲の為 被害業況の把握が困難
- 被害に遭われた方々に情報がいきわたるのが困難

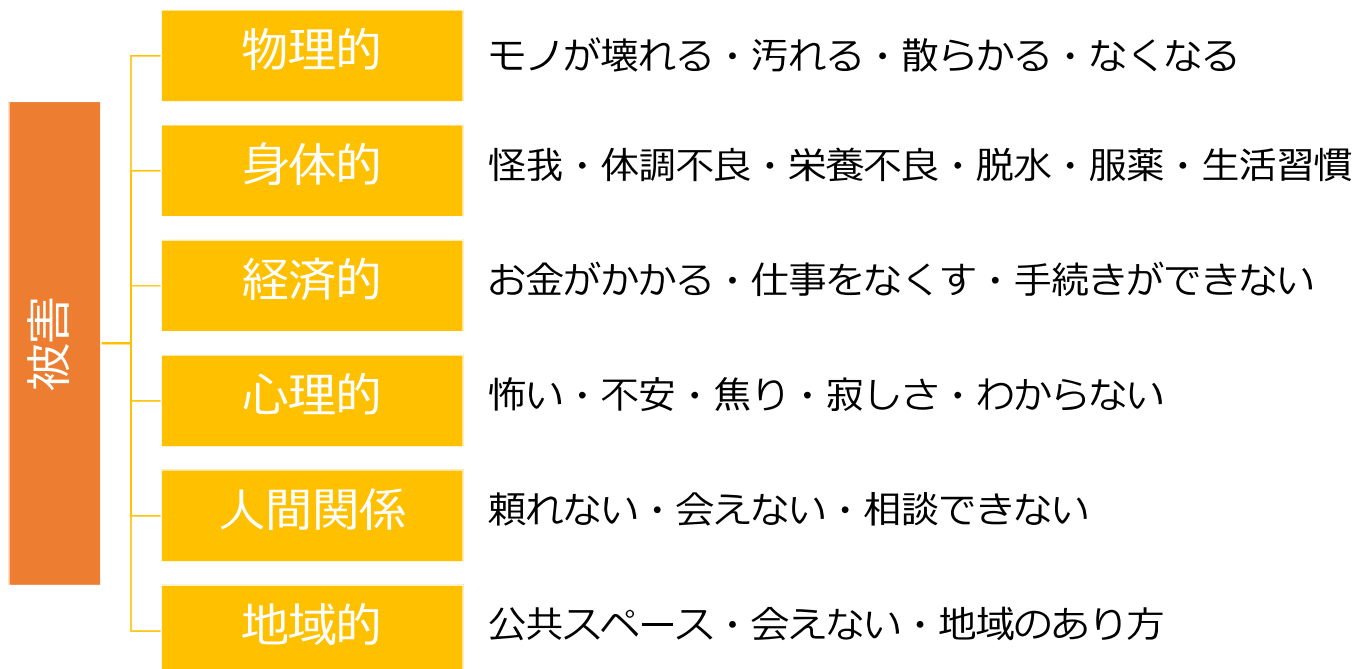


被害の種類

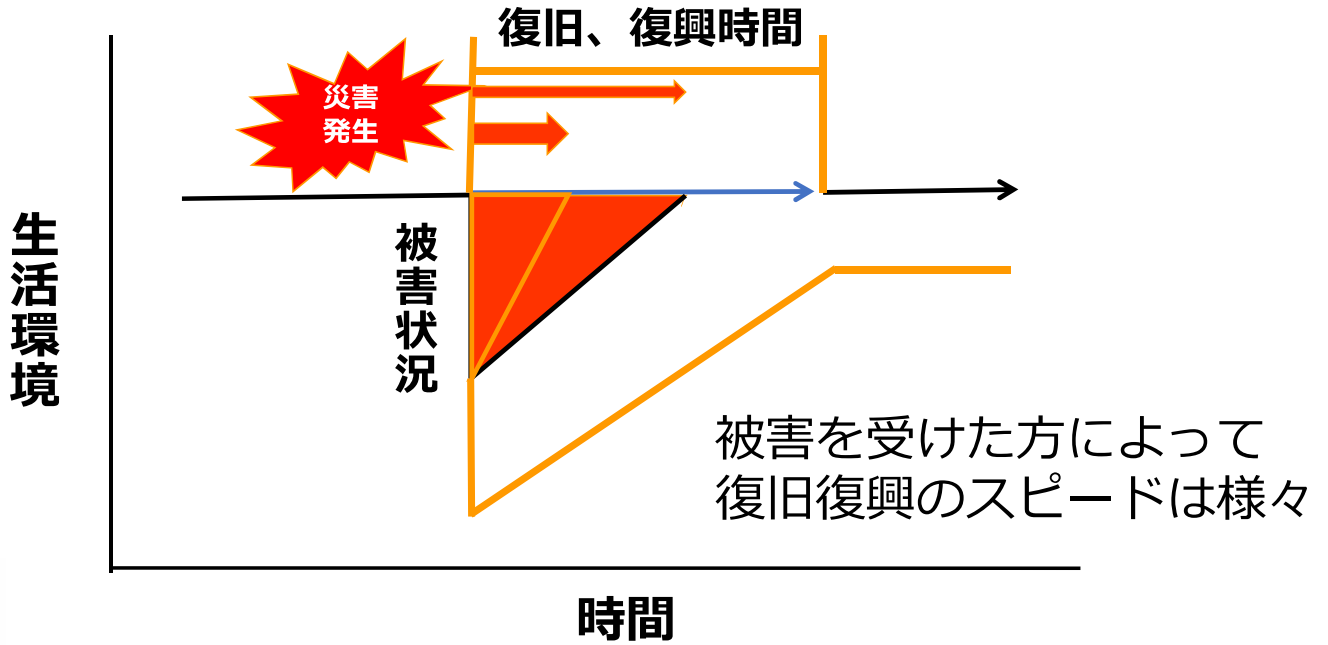
人的被害：死亡・行方不明・重症・軽傷 etc.

家屋被害：全壊・大規模半壊・中規模半壊・半壊・準半壊・一部損壊 etc.

産業被害：農業・漁業・観光業・ etc.



災害復旧の時間



発災から復興

	緊急時	復旧期	復興期
住民 心情	不安、恐怖、怒り、悲しみ	積極性や明るさ、連帯感や希望	不安、孤独感、絶望感、行政などへの不満
住民 行動	安全確保 安否確認	片付け、解体手続き 手続き	解体作業 生活再建 環境作り 産業再建
行政	行方不明捜索 安否確認 安全確保	応急復旧計画 死体捜索 瓦礫撤去 土砂運搬 罹災証明発行	復興計画(案) 災害復旧作業 (山、川、道、公共施設) 地域再建 産業再建
支援	関係機関と連絡 VC準備 ニーズ調査 資材の確保 支援物資の配布	VC開設 瓦礫出し 内外の土砂出し 引っ越し	仮設住宅へのサポート 復興イベントのサポート 防災 作業ボランティア(農業・漁業)
	72時間	3ヶ月	2、3年
	発災 避難所	仮設住宅(1ヶ月目途)	復興住宅、再建



支援の目的

現状復帰と見守り

- 1 : 厳しい再建（効率的な復旧）
- 2 : 被災者への寄り添い（関連死）
- 3 : 価値観の変化（前向きな考え方）



直接支援～後方支援

直接支援

現場V・技術系V・炊き出しVなど

直接支援をする方

間接支援

災害VCスタッフ・NPOセンター
支援コーディネーター（つなぎ役）

支援活動を調整する方

後方支援

支援活動を支える方・募金活動や企業

支援者を支援する方



【被災地で行われた災害ボランティア活動】

<避難所>

- 避難所でのお手伝い（炊き出し、マッサージ、演奏など）
- 話し相手、足湯
- 子どもの遊び相手、託児代行
- ペットの世話
- 暮らしに必要な情報の提供支援

<災害現場>

- 家や庭の片付け、泥出し
- 敷地内の家庭菜園などの再生
- 配食サービス

<生活支援>

- 暮らしのお手伝い
- 生活物資等の訪問配布
- 被災された人たちに元気になっていただくための交流機会づくり、イベント開催
- 暮らしの再建のための専門家の相談会、勉強会
- 復興期における地域おこしのお手伝い

などなど



事例①：住民支え合いマップ

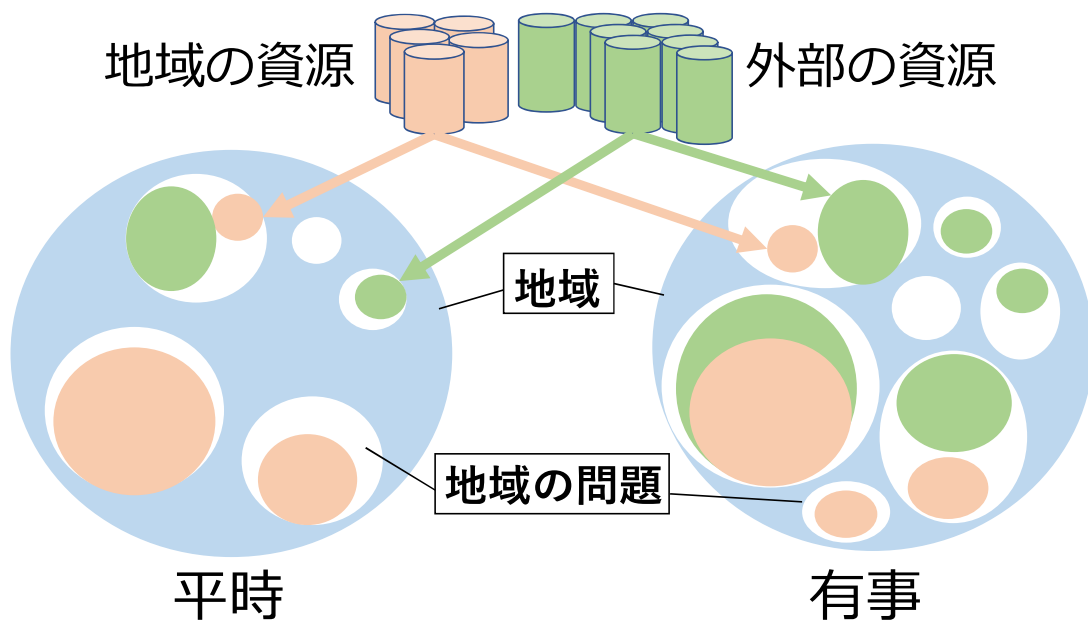
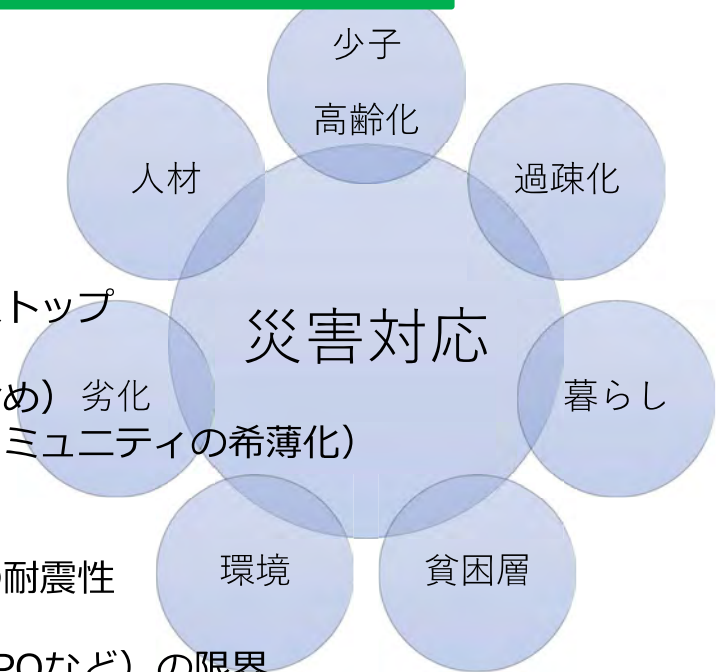
〇〇〇自治会 住民支え合いマップ (サンプル)



事例②：災害福祉カンタンマップ

社会課題

- ① 少子高齢化社会
(人口減少)
- ② 都市部の過密化と地方過疎化
(地方の働き手問題)
- ③ 失われた30年による経済成長がストップ
(貧困層の増加)
- ④ 暮らしの変化(家屋や家族構成を含め)劣化
(日本家屋→ハウスメーカー・コミュニティの希薄化)
- ⑤ 環境の変化
(気象変動・里山や森林の保全)
- ⑥ 公共物(橋・道・トンネルなど)の耐震性
(日本列島改造論から約50年)
- ⑦ 災害対応する担当(行政・社協・NPOなど)の限界
(金銭的・人力的・経験的)



平時から、地域内ではそれぞれが抱える問題があり、支援が行き届いていない(=空白)場合もある。しかし災害などの有事で問題が大きくなる。いかに地域内外の資源(人物金)を駆使して空白を埋めるかが大切。



現代社会の課題

自治会内での防災活動
災害時の救援活動

地域の防災活動への参加
災害時のボランティア活動

担い手不足

暮らし方の多様化

自治会未加入者

少子高齢化

個人情報

外部支援者

担い手の発掘

世帯の縮小・単身化

家屋の繋がりが希薄

貧困・孤立

財政難

広域合併

定期的な異動

災害時の限界

自分や家族の防災対策
災害時の命を守る行動

制度による公平、平等な
サービス提供



災害NGO 和~yui~

関係機関の性質



行政：法律や制度
公平平等
縦割り
事例

社協：福祉ジャンルに強く
地域とつながり
民生委員・ボラセン
近隣社協間のつながり

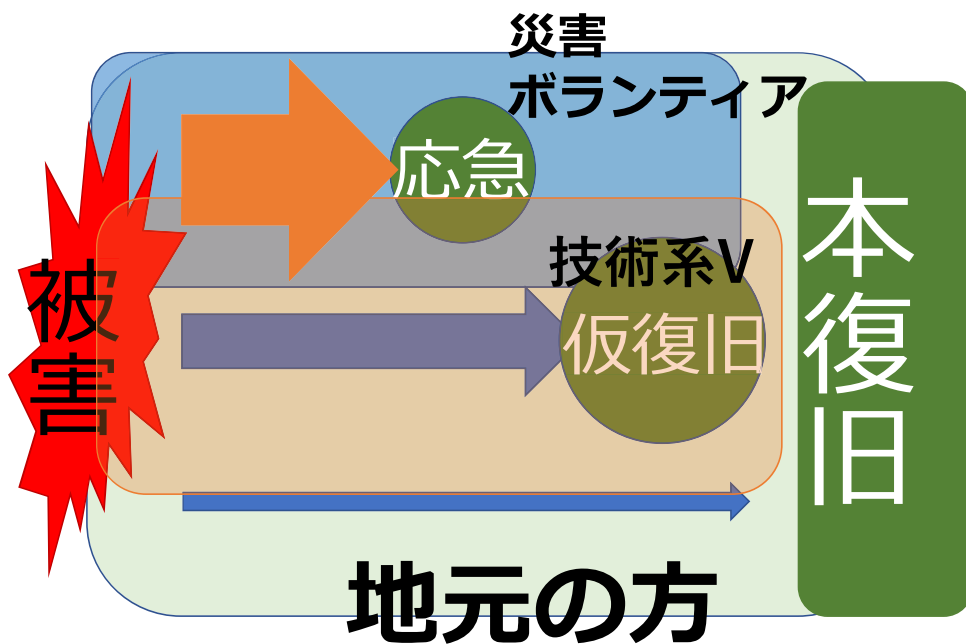
NPO：フットワーク
決断力
特化したスキル

企業：専門知識
資金
人材
業界ネットワーク

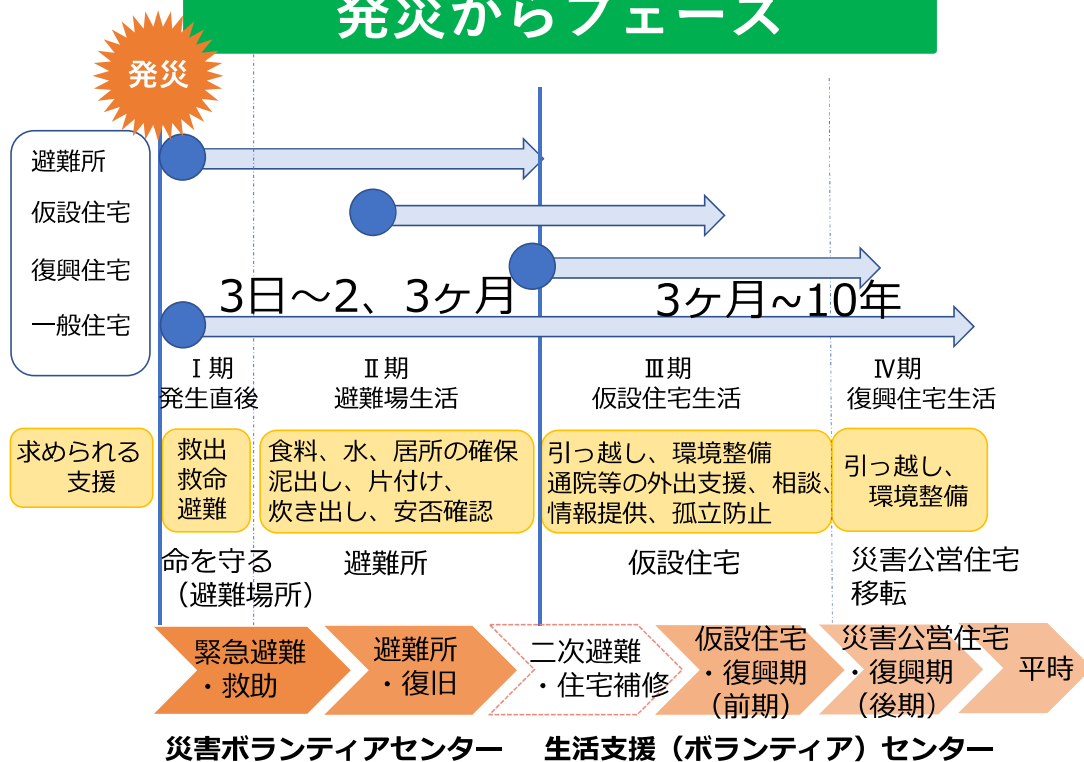
関わる組織の性質、特徴を知っておくこと



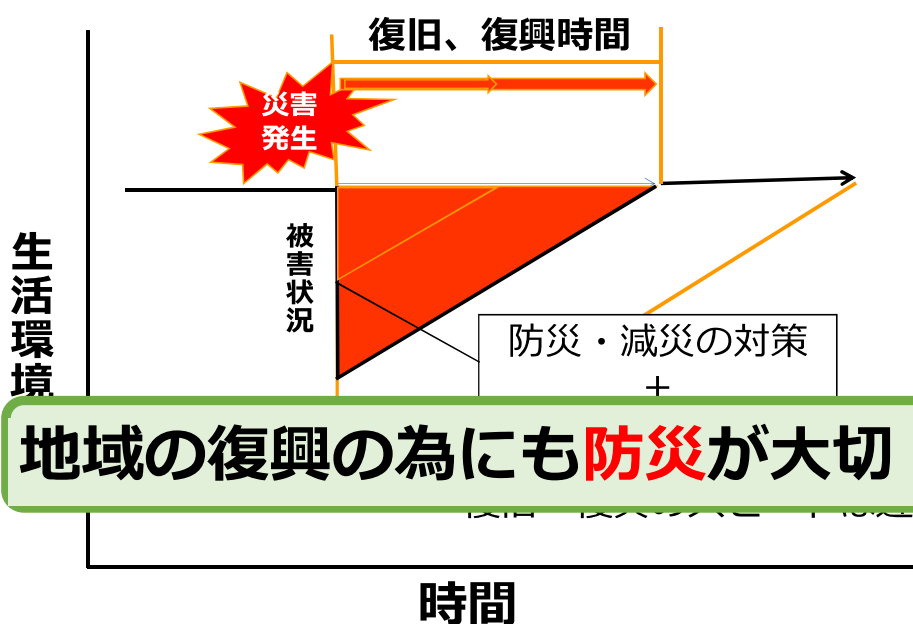
被害の対応



発災からフェーズ



災害復旧の時間



各地で災害支援に
関わらせて聞く言葉

**まさか私たち町が！
まさかここが！！**

正常性バイアス

！
どうか自然災害を忘れずに
自分事に感じてください



防災の考え方

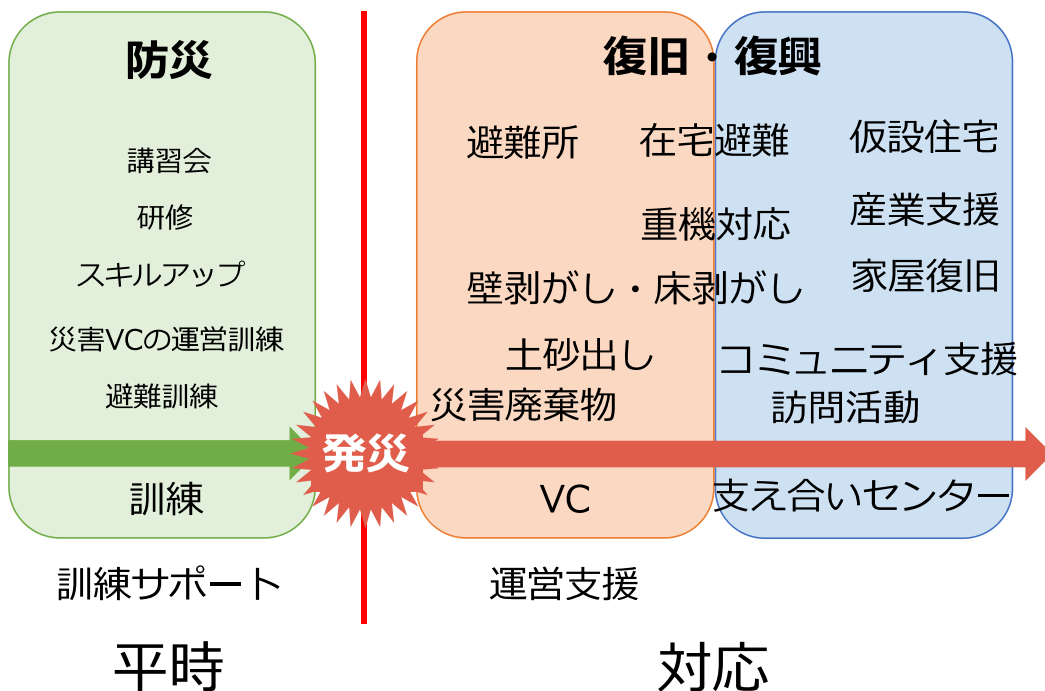
自分の命を守る為の防災



大切な人を守るために今何が必要か？
何を準備した方がいいか？



防災とは



受援力

地域・団体によって

受援力

に大きな差がある

地域の方々が受け入れて初めて

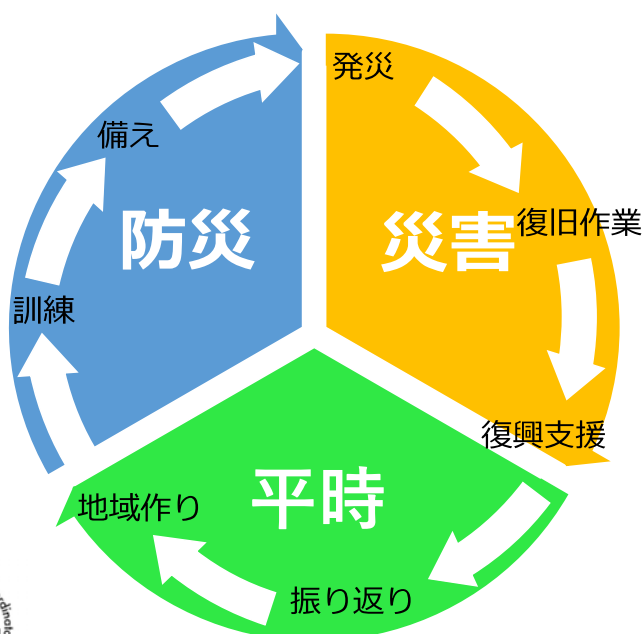
外部支援者（ボランティア）は、円滑に支援活動を行う事が出来る。

地元の**受援力**が復旧の速度を左右する事もある。

※**受援力**・・・援助を受ける力



災害対応～平時～防災



平時に出来ない事は
有事（災害時）にも出来ません。

平時から出来る事を増やし課題を解決出来る力を備えましょう。
それが地域の力に変わります。

災害時で気付いた地域課題を振り返り、
見えてきた地域課題や地域作り
に取り組む事は次の防災につながる。



災害前までの備え

- ①受援力・・・外部から必要な支援を受け入れる力
- ②連携・・・多種多様な方々との連携
- ③自助・互助・・・顔の見える関係（地域の住民内）
一人ひとりで出来る事を増やす

有事よりも平時が大切



人が人を支える

どんなに道具や車両、仕組みが進化しても、それを使うのは人

県内外から沢山の方のお力をお借りして、関係機関が連携しながら復旧作業をおこなうことが大切。

また最後は地域の方々の力が必要不可欠になります。

お互いさま。支え合い続けれる地域を持続していく事が大切。

災害に強い地域→平時から助け合いが出来る地域



平常時から始める地域づくり

岡山県内の 平常時・災害時に 活用できる資源の紹介

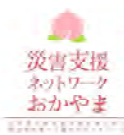
R7年度自主防災組織リーダー研修会・応用編



変えるを、変える。

岡山NPOセンター

地域連携センター主任（災害担当）
災害支援ネットワークおかやま事務局



ABOUT US

自己紹介

▼2018年

7月7日に西日本豪雨発災を受けて入職。

7月13日より倉敷市災害ボランティアセンターに配置。ICT導入支援、支援調整など担当。

▼2019年

4月 まび復興ボランティア・NPOシェアオフィス「まびシェア」設置。

10月～12月 令和元年台風15号・19号支援でJVOAD応援派遣で福島県を担当。

▼2020年～

真備の支え合いセンターや、地域の支援拠点「お互いさまセンター・まびラボ」の

皆さん、地域自治組織のみなさんの活動支援をネットワークのみなさんで行う。

災害支援ネットワークおかやまの被災家屋部会で「復旧ロードマップ」の作成。

物資部会で、物資の調達と調整、輸送の仕組みづくりなどを行う。

▼2023年

8月は秋田県の中間支援組織の災害対応応援で派遣。

情報共有会議の立ち上げ支援、被災者生活再建ノート、JVOADテクニカルチームの

水害対応秋田編にローカライズした復旧ロードマップを提供。

▼2024年

能登半島地震の支援に派遣。1月～2025年3月まで七尾市、輪島市、能登町などで

滞在型で、地域の社会福祉協議会や行政、中間支援組織、直接支援団体を支援。

詩叶純子
しかなえ
じゅんこ

西日本豪雨から7年。昨年も広域に局所的な風水害が発生。

2024年の能登半島地震では、地震から起きる火災・津波・液状化などが引き起こす深刻なインフラの被害や高齢化がもたらす復旧・復興の難しさを見ることになりました。

災害時には避難と安否確認や、避難生活の相互支援など地域の力こそが命を守ります。平時からの備えのための地域の活動に使える資源を紹介します。



平常時の活動（備え）



防災知識の普及啓発
講習会や研修会の開催



防災訓練の実施
消火訓練
避難訓練
救護訓練など



地域の防災安全点検
防災マップの作成
危険箇所の確認



資機材の整備・点検
消化用具や救出・救護資機材などの準備

災害時の活動（応急対応）



情報の収集・伝達
被害状況の確認
住民への情報共有



初期消火・救出・救護
火災初期の消火活動
負傷者の救出や応急手当
救護所への搬送



住民の避難誘導
安全な場所や避難所への
誘導。特に要配慮者への
声かけ・支援



資給食・給水
炊き出しなどの活動

地域の防災活動を整理してみる

私のマチの自主防災シート				
市町村名	町名	自主防災組織名	お名前	
自主防災 地区防災の活動チェック	<input checked="" type="checkbox"/> 項目 <input type="checkbox"/> 町内会など自治組織と協力した運営ができて いる <input type="checkbox"/> 定期的な防災の研修や勉強会ができて いる <input type="checkbox"/> 地域活動の中で防災訓練ができて いる <input type="checkbox"/> 防災のための資機材が整備が できている	<input checked="" type="checkbox"/> 項目 <input type="checkbox"/> 地域の防災マップができて いる <input type="checkbox"/> 要配慮者の避難支援の計画が できている <input type="checkbox"/> 地域で炊き出しが できる <input type="checkbox"/> 地域で避難所運営が できる		
	活動内容	関係者・団体	実施時期	

自主防災組織だけでなくお住いの地域での防災活動を整理します。
A3のワークシートの項目に従って10分程度で地域の活動を書き出してください。

目指す地域になるために

ワーク02
WCRN 02

① 目指すべき「災害に強い」地域の状態

ビジョン ミッション



実施に必要な資源は？

人と組織
仲間

活動費

資機材

場所

③ 課題を解決しビジョンに近づくための活動の実施



講座・研修 地域活動 防災訓練

② 活動の実施背景

地域課題



使える資源を探す／民間助成

資料
DATA 01

岡山県内の防災活動を対象とする民間助成制度

団体名/団体名	助成制度名	助成の主な対象・目的	助成額(目安)	特徴・募集状況に関する注釈
公益財団法人 みんなでつくる防災おやかや	みんなつく災害支援基金	災害発生時に、被災者や被災地を支援するNPO等の活動支援。 (平常時の事業活動助成は別の対象外)	災害の状況に応じて募集決定	岡山県内で災害が発生した際の緊急・復興支援に特化。平時時の「防災訓練や避難所開設」にいた活動は対象外となる可能性が高い。募集は災害発生状況により決定される。
公益財団法人 岡山県赤松町振興協会	防災のまちづくり推進助成事業	市町村、NPO等の実施する地域防災活動の一環として事業(防災対象事業を含む)。	事業費の1/2以内(最高上限180万円)	防災が主目的ではないが、広域的な防災活動や、行政と連携した訓練事業などを行うことが可能。募集時期は防災推進委員会にて確認ください。
公益財団法人 光記財団	社会福祉事業助成金	高齢者、障がい者、子どもなど、社会福祉を目的とした活動。自然災害により発生した団体による事業活動助成。募集。	20万円～300万円程度	広域的な防災活動よりも、「災害時要援護者の支援や、被災した福祉施設等の復旧に重点を置いた活動で活用実績がある。全団体が対象。岡山県内のNPOへの助成実績あり。
公益財団法人 日本財団	災害支援特別基金	大規模災害発生時、被災地での緊急物資や復興活動を行うNPO・ボランティア団体への助成や資金提供。	プロジェクト単位による	全国を対象とするが、災害発生直後の活動において、岡山県内で活動する団体を支援することが可能。平時時の募集制に該当せず対象外。
日本財団 地域防災センター	防災防災活動支援助成プログラム	国内の大規模自然災害に対する事業活動助成。被災活動、被災地支援活動の推進を目的とする。	プログラムによる	全国対象。地域の防災マップ作成、避難経路の高度化、災害対応訓練など、具体的な事業活動が対象となる。募集は年度により変動。

助成金利用に向けた重要なポイント

- 募集時期と目的の確認: 民間助成金は、自団体の補助金と異なり、募集期間や助成目的が年度や災害の状況によって大きく変動します。特に「みんなつく災害支援基金」のような災害基金は、平時には募集を行っていないことが多いです。
 - 事業内容の適合性: 助成団体はそれぞれ「社会福祉」「地域復興」「震災防災」など、募集するテーマが異なります。申請の際は、あなたの活動がその団体の目的に最も適合することを明確に示す必要があります。
 - 申請資格の確認: 助成対象は「特定非営利活動法人(NPO法人)」や「公益法人のみを対象とすることが多いです。「任意団体(自主防災組織など)」が申請できるかどうかは、必ず募集要項で確認してください。
- 次のステップとして、現在募集中の助成制度がないか、以下の団体に直接お問い合わせいただくことをお勧めします。
- 地域の中間支援組織: 岡山NPOセンターや、みんなでつくる防災おやかや、地域の社会福祉協議会は、最新の助成金情報や申請支援を行っている場合があります。
 - 各団体のホームページ: 募集時期や募集要項を直接確認することで、最新かつ正確な情報を得ることができます。

災害に強い地域をつくるために

THANK YOU

目指す地域の姿が描けて、地域の人と共有できている

地域の課題と、その原因が分かっている

課題可決のための活動や仕組みづくりが計画できる

計画を実行できる資源があって仲間がいる

1. 地域として目指したい目標・姿

(例:誰も取り残さない避難体制/災害に強い地域づくり/顔の見える関係づくり など)

2. その目標・姿を実現するために、現状抱えている問題・課題

(例:避難支援者の把握が不十分、備蓄場所が分からない、地域連携不足 など)

3. 問題・課題の原因は何か

(例:情報共有の仕組みがない、役割分担が決まっていない 等)

4. 研修後からご自身が取組んでみたいこと

(今日からできる小さな行動/地域として進めたいこと)

1) _____

2) _____

3) _____

4) _____

【メモ欄】

1. 研修後からご自身が取組んでみたいこと

(1枚目で書いた内容から選択)

2. 1を取組む上で一緒に考えたい・相談したい人

(例:自治会役員、近所の人、学校、福祉関係者、家族 など)

- 方針を決める時に一緒にしたい人や団体

- 具体的な行動に移す時に一緒にしたい人や団体

3. 実施するために必要な資源(ヒト・モノ・情報など)

(例:広報チラシ、場所、備品、専門知識、協力者 など)

4. 実施までのステップ(スケジュール)

- Step 1:

(目標の時期) _____

- Step 2:

(目標の時期) _____

- Step 3:

(目標の時期) _____

5. 行動宣言(できる範囲の小さな一歩)

今日から/今週から/来月から...

【メモ欄】